

不育症相談窓口を開設

徳大病院

徳島大学病院(徳島市蔵本町2)は8月2日、不妊相談室に不育症相談窓口を開設する。専門医を配置した専門外来も設ける。妊娠しても流産を繰り返す不育症は、高齢出産の増加に伴い増えているが、県内にはこれまで、専門の相談・治療機関はなかった。

来月2日外来も

徳大病院によると、妊娠し 不育症窓口には助産師の資
格を持つ相談員1人を配置。
た人のうち約15%が流産、4
・2%が2回の流産を経験し 専門医2人が状況に応じて相
談員をサポートし診察もす
ている。不育症と定義される
のは複数回流産した人。原因
は胎児や母体の染色体異常、
子宮の形態異常などさまざま
あり、治療も難しい。 徳大病院は2000年に県
から委託を受け不妊相談室を
開設。不育症の相談も受けて

高齢出産で患者増加

いた。患者が増えてきたこと
から、専門の窓口と外来を設
けることにした。
産婦人科学の奇原^{オドモ}教授は
「不妊症に比べて不育症の治
療はまだ一般的でない。最新
の情報を提供し、適切な検査
と治療で出産につながる手助
けができれば」と話した。
相談は火曜日の午前10時～
正午で予約制。月、木曜日の
午後1時半～同5時と火曜日
の午前9時半～正午、専用電
話(電088(6333)72
27)で予約する。専門外来
(火・水曜日、初診のみ平日
午前中)の問い合わせは産婦
人科外来(電088(6333)
7175)。 (大塚康代)